

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	今は地区の役員さんや長寿会の会長さんが地域との橋渡しをしてくださっているがいつかは自然に立ち寄れるような関係を築いていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	個々の見守る力(観察力・危険予測など)の向上を考えている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	交流を深めていくことで地域中で暮らすことが当たり前のことなんだと私たち施設職員、ご家族様、地域の皆様が思える日が来るまで取り組んで行こうと思っています。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	まずは管理者が先頭に立って地域の皆様と交流し低下しなければならぬと強く感じていますのでこれを機会にかんばって行こうと思います。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域に密着する目的を持って地域交流の機会を長寿会、地区役員さんがスケジュール調整してくださっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	長寿会との交流を通し認知症についての理解を深めて頂こうと考えております事業所をよく知っていただくために交流会を月に2～3回行う予定でいる。	○	交流会を通してこの施設がどんなとこなのか何を目的にしているか少しずつ理解して欲しいと考えます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けとめ職員に公表しその上で自分たちがどうすべきなのか毎回話し合っている。また推進会議でも発表している。	○	評価が出ることでどうすべきか自分たちを見つめなおす良い機会だと思っている。職員同士の向上に役立っている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では今地域交流を題材に行っており、いろいろなアドバイス・意見が役立っている	○	アドバイスが役立ち今、交流会を進めている。次回の予定も立っており、それを利用者さんも楽しみにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自分たちで分からないこと難しいケースなど役所に電話したり足を運んで相談に乗っていただいている	○	事業所の活用法を相談している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を利用している。必要だと思う利用者さん、家族には権利擁護事業の話をして、実際に活用していただいている。	○	認知症であったり、高齢なご家族、遠方の家族にとっては必要だと考えているので、今必要ではなくても機会があると話させていただいています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したりTVからの情報をもとに話し合ったりしている。	○	入浴時など身体的虐待がないか体を確認し、傷・あざ等は看護師・管理者に報告している。声かけに対しても尊厳を傷つけるなどの言葉の暴力がないか注意している。職員のストレスにも注意している。入所初期、家族の面会時に家族による言葉の暴力など過去にあったのでその点も注意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学時に事業所の方向性や理念を伝えたり心配事に耳を傾けたりしており契約前に十分な説明をし、さらに契約時にも説明をしている。	○ 分かりやすい(専門用語を避けた)言葉で説明を行う。契約を交わすまで時間をかけている。入所時から当施設の介護の限界を十分にはなしており、入所してからも同じように説明をし、あらかじめ特別養護老人ホームなどの入所の検討などしていただいている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	なかなか意思疎通ができないが常に今日はどうですか?など伺っている。	○ 表情日常生活の変化に注意し声かけを行い安心した生活が送れるように心がけている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	良い変化、悪い変化もきちんと伝えるようにしている。介護上の話は管理者を、健康面では看護師を主に伝えている。職員の移動は推進会議で報告している	○ 今年から健康診断後に先生の話の伺いこれからの方向性を考えた面接を行う予定となっている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情受付を置いているほかに、面会時や電話のときなど何か心配事や不満・改善点など伺っている。	○ 出されてしまったら困るという考えからなかなか意見がいえないと困るのでその点に注意をはらって言葉をかけている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員の意見を大切にしている	○ 日常的に職員との会話をしちょっとしたことなども良い職場づくりに役立っている。職員はよく意見を言えていると思う
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務体制になるべく余裕を持たせ急な変化にも対応できるようにしている。	○ できればあと一人職員が欲しいと思っている。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	新しい職員には、利用者さんへの対応のポイントをよく指導する。過度な個人対応をしないようにしている。	○ 職員は全員に同じように対応するよう指導している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は事業者から積極的に持ちかけて学びの場を提供している。資格試験に対しても協力している。	○ 介護福祉士実技講習2名終了 実務者研修1名終了で1名予定 他研修に6名出席している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護や職員育成など相談できる同業者がある。	○ 以前交換研修を行ったのでまた行いと考えている
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	積極的に話す機会を作っている、何でも話せる環境づくりをしている	○ 職員の意見を取り入れいろいろなことが改善されている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職務態度、能力を評価し伝える。またそのよいことについては他職員にもつたえ向上心を高めている	○ 取り組みを始めてから職員一人ひとりが様々な工夫をし成功の報告を受けている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所する前に面接をしたり入所後は信頼関係を築く努力をしている	○ 事前に頂いた家族からの情報をもとにコミュニケーションをはかり徐々に本人からの訴えを聞くことができる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭での介護の困難を理解し傾聴やねぎらいをくりかえし家族との信頼関係を少しずつ築いていく。	○ 家族の話に傾聴すること、事例を話すことで安心され心配事本当はどうして行きたいかを話していただけるようになった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所が家族や本人の望むケアが行えるか見極めて相談を受けている。	○	入所前に他の施設の見学などをすすめたり他のサービスの利用法なども話している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学していただいたり、入所後家族も一緒にとまるなど行っている。	○	23に同じ
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に立場を考え行動している	○	昔の話を教えていただいたり歌などを教わっている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションでは良いことも悪いこともつたえ行事など協力して行っている	○	支援でうまくいったことを報告し喜び支援でうまくいかなかったことを相談しアドバイスなどを受けることもある。また職員を励ましてくださるご家族もいる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面接時、本にと家族だけにせず、会話に参加し意思疎通の手伝いをしたり、外出時には注意点などを家族に伝えよい関係づくりに協力している。	○	行動パターンや排泄パターンを家族に伝えむりせず家族で外出できるようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その場へ外出することの出来ないひとには、話をし、外出時にはなじみの景色を見られるように計画している。	○	家族の協力を得られるようにしている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人、お話の好きな人同士を一緒にしたりレクなど輪になってやるようにしている。話しのきっかけづくりを行っている	○	職員が利用者様同士のコミュニケーションの潤滑油になるように心がける

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事などの招待状、年賀状などだしている	○	退所された家族が今もボランティアに来てくださっている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全安楽を考えた支援を心がけている	○	個々の体調気分にあわせ無理に誘ったりしない押し付けない
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集をしている	○	本人だけでなく家族、なじみのある方などからも情報収集している
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常的に本人の生活を観察している	○	変化を見落とさないように心がけている
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員・管理者・ケアマネ・看護師・かかりつけ医が連携を図って行っている	○	介護計画をたて本人にあっているか検討し家族に確認を取っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認知症の重度化、体調の変化または季節による影響も含め見直している。	○	36に同じ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録がある	○	特記事項がある場合細かく記録し管理者につかえたりしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の演芸発表会への参加、教育実習・体験の受け入れボランティアの受け入れを行っている	○	消防署の方から連携防災訓練の話を頂いているので検討中です。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所施設のため他サービスは実費となってしまいが美容院の協力を得て、施設内でのカットサービスや美容室へ通うことも出来る。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に検討しており入所者の中には権利擁護事業を利用されている方がいる。	○	権利擁護事業を利用するのに時間が掛ること、成年後見人制度はもっと手続きが難しいことを理解し利用者家族には少しずつ話をしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、看護師と連携を図り個人に合った医療の提供を支援している。場合により訪問看護との連携も図っている。	○	かかりつけ医、ならびに町内の医療機関には家族の了承のもと通院の付き添いを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	わからないことは常に相談し協力していただいている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	体調管理、薬の効果など観察し本人に無理なく医療が受けられるようにしている
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	職員の事を忘れないよう出来る限りの面会に努めたり、介護上の必要な情報を提供し、精神的ダメージを最小限にするよう努めている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	職員で出来ること出来ないことを良く話し合い家族に施設の対応として話している。またかかりつけ医、訪問看護との連携を密にとり終末期のケアを行った。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期では職員の精神的ダメージも大きくその後のフォローアップも重要であった。また他利用者さんに何らかの影響が出ていないか精神面のケアも行った。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	持ち込んだ荷物についてはお名前を書かせていただき紛失を避けるとともに、そのものについて話をし、ダメージを防ぐ努力をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>個人に合った言葉かけを心掛けている。記録などについては利用者さま、来所者様の目に付かないようにしている。</p>	○	記録については記録室を使用し持ち出す時は責任をもって返却するようにしている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>出来るだけ自己決定が出来るような働きかけを行っている。</p>	○	その人の理解力や聴力に合わせた越えかけを行ったり、物を選ぶ機会を作り「何でもいいです」という答えが返ってこないような働きかけを行っている
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>職員同士が連携を図りその人のペースに合わせてながらも重要事項を周りの職員や次のシフトの職員へ報告を行っている。</p>	○	時間の流れに沿って支援を行希望を聞き、心身状況に問題がなければ本人の希望を受け入れています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>美容院と連携をとり本人の希望する時になるべく行ける様にしている服装もいつも同じもにならないように心掛けている。</p>	○	施設でカットする時は本人の希望に沿えるようにしている、顔剃りや眉毛カットなどして身だしなみを整えたり、日常でも着崩れいたらそれとなく声を掛けたり援助したりしている。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>庭にある野菜を採ってきて調理の下ごしらえをしていただいたり、調理のレクを行って一緒に作って食べている。テレビなどを見て美味しそうだと声がかかると作ってみたり好きなお弁当を注文したりしている。</p>	○	以前は台所に入れる人もいらっしやいましたが今は無関心だったり清潔不潔の区別がつかなくなっているのので、レクリエーションとして参加していただき楽しんでいただいている。CMなどでお弁当の新作が流れると皆さん食べたいと言われるので、出来るだけ提供するようにしている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>おやつなどは幾つかあるものから選んだり好みのものを用意したり季節の物を出したりして目でも楽しめるように考え提供している。</p>	○	甘い物・辛い物が苦手な方、冷たい物・熱い物が苦手な方もいらっしやいますのでそれぞれにあったもので不公平にならないように提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	水分や食事の摂取量・下剤の服用などを理解し排泄のサインや排泄パターンを考慮し、支援している。	○	排泄パターンだけでなく排泄のサインが人それぞれあるので見逃さないように心掛けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	固定で週2回火曜日と金曜日に心身上問題なければ入浴していただきそのほか希望があれば入浴をしていただいたり、固定日に入れなかった人には入浴の希望を聞いている。	○	他の人が入らなければいいですと遠慮したり、入浴を嫌う人がいるので気持ちよく入れる声かけを行い、入浴の希望を聞いている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に寝てもらったり誘導せずに声かけを行ったり、気持ちよく寝られるように室温調節やベットメイキングを行っている。また眠剤に頼らず眠れる支援を行っている。	○	早く寝てしまう人に合わせて居室に戻られる方がいらっしやるので居室にうかがって話をしたり、夜眠れるように昼間の仮眠を調節したり、体を動かすレクを行ったりして自然と眠りにつけるような支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯の手伝いやレクの準備などその人が出来ることを探して役割を分担したり、協力をしていただいている。	○	洗濯を干す、取り込む、たたむ、名前別に分けるなど一つの作業の中でも分担して出来るところで協力していただいている。車椅子から降りてでも草むしりに参加して下さる方もいらっしやいますので本人が希望されたり協力を申し出てくださった時には出来る限り支援をしている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持つことは行っていません。出先で買い物する際にはお金を渡して好きなものを購入できる支援をしています。	○	施設のほうで個人のお金をお預かりすることはしていません。また認知症もあり物取られ妄想のある方、他人の居室に入って収集する方もいらっしやいますのでトラブルを避けるために金銭の持ち込みはお断りしています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて散歩など声かけをします。また季節の花や観光名所へのドライブも積極的に誘っています。	○	体力低下、無関心、無気力などで外出を断られる方が多くなっているので数日前からドライブなどに関心が向くようにコミュニケーションを図って外出するなどしています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者さんから聞いた行きたい場所などを家族に伝え協力していただいたり、行きたいところが近場であればドライブに組み込んだりしている。	○	全体ではなく少人数で出かけることも行っている利用者さんが入院した時に利用者さんからの希望があつて一緒にお見舞いに行ったことがある

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという希望があるときは、かけている。また家族からの電話をつないでいる。お手紙も届いた物はお渡ししています。またお返事が掛けない方には協力したり電話したりしています。	○	番号がわからない方にはこちらで掛けてからつないだり手紙、葉書はいつでも使えるように用意してあります。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などはきめておらずいつでも来ていただけるように伝えてあります。また最寄の駅まで送迎したり電話などで道のりを説明しています。	○	出来るだけなじみの人や、家族に面会に来て欲しいと思っていますので、来られた時にはまたぜひ来ていただけるようお話あいています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どこまでが身体拘束に当たるかなどを管理者から職員に話している。	○	身体拘束を行う場合についての理由や必要最低限でなければならないこと、注意事項も説明している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関・居室(窓やドア)鍵を掛けないこととしている	○	皆さん自由に入出入りしています。もちろん心身上安全面で必要な時は掛けさせていただいています。(外が大雪、豪雨など)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して居室にいる場合は何度も居室に入っていくと、やはり不快感があるので何時に居室でどうであったかは職員同士情報交換し、安全に努めている。	○	居室や屋外にいる利用者さんについては安全を確認した時点で職員が情報を共有できるように伝達している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室においては個人の状況に応じた物品の配置をしていますが共有スペースについては特に危険でなければ配置されています。また多少使い方によっては危険となる装飾についても座席位置や動線に配慮して殺風景にならないようにしています。	○	危ないから置かないというのではなくその場所に必要か必要でないかを考慮し、配置する場合においても危険予測を行い
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全てにおいて誰にでもおこりうることであるので心身状況変化に注意をし危険を予測し事故防止に努める。	○	いつでも誰にも起こることを考え、決め付けず、注意している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部の研修をうけたり施設看護師かかりつけ医から応急手当を教わっている	○	まだ全員が受けていないので全員が受けられるようにしていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を昼に一回夜に一回の計2回年間に行って反省会を行っている防災マニュアルがある	○	防災訓練後何が良いか悪いかを話し合っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	心身上変化が見られるたび管理者、または看護師があらゆるリスクについて話し合いをしている	○	介護上大切なことなので家族との連絡は心身上の変化があった場合は必ず確認している
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	知りえた情報は共有し注意を払い早期対応できるようにしている	○	その場にはいない職員に対し連絡ノートで情報提供している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理し変更のあったときは、副作用などの説明をし利用者の変化に注意している。	○	全員が薬の知識を持っている訳ではないが薬帳に薬の成分効果副作用を書いている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく薬の服用をさげ、食事や食事や運動で排泄できるように援助している	○	便秘気味の利用者さんには排泄の工夫をして援助している
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは本人と職員が協力して行っている(1日3回)	○	口腔ケア時一日一度は口腔内の観察をするようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取の落ちている利用者さんについては、摂取表の記録をし家族、医師に相談している	○	摂取量の落ちている利用者さんには、その日の体調により食しやすいもの飲みやすいものを用意したり、食べたいときにいつでも食べられるように食品を用意するなど工夫している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがある	○	感染症予防については1年に一度外部の研修を受けに行くようにしている。研修で学んだことは施設で共有し感染症予防に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後の台所の清掃を行っている。保存食品等の賞味期限は1ヶ月ごとに行い、期限の短いものから手前に陳列している。	○	畑で季節の野菜を栽培し、採れたものを調理して提供したり、購入する場合は原産地、賞味期限、鮮度を確かめている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、スロープ、手すりをつけて出きりしやすくしている。建物の周りにはなるべく段差のないようにしている。庭に花を植え季節を楽しめるようにしたり家庭菜園をしている。	○	以前門扉について指導があり職員で話し合った結果、季節の花を植えることで印象を和らげようとしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾などは季節感のあるものを選択している。また利用者さんの作品などを飾りつけている。	○	作った作品を飾ったり出かけたときの写真を飾ることで、自分がここにいるという安心感を持ったり、また何かしましよねと次の行事を楽しみにされる方が増えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースであっても自分の場所(座る位置)を利用者さんは大切にされるので、普段から気の合う人同士か近くになるように席の配置を考えている。	○	場所を気にする利用者様には個々の椅子に特徴をつけたりテーブルに名前を張ってトラブルのないように心がけている。またホールに椅子を用意し一人になれる空間の提供をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の症状により家族と話し合い居室の工夫をしている。	○	なじみのものを居室に配置する、家族の写真を貼るなどして居室の雰囲気を利用者様に合せている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気にもよりますが適温のときはなるべく空調にたよらず自然換気を行っています。また屋内でも居室や公共スペースに大きな温度差がないように常に心がけています。	○	温度差や空調により体調を崩される方が多くいらっしゃいますので室温、換気には十分配慮しております。空調の温度設定などしたときは利用者様に適温であるか声をかけたり下肢の冷感、など確かめる。職員同士でも温度設定を変えたことを伝達している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行においてはできるだけスペースを確保し、手すりなどつけており床の汚れなどにも注意を払っている。	○	心身状態に応じて居室の移動を行うことがあることをあらかじめご家族にお話し理解していただいている。(ただし本人が居室の変更によって不安、不快を感じる場合は行わない)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その日によって行動出来たり、出来なかったり、理解できたり、出来なかったりとあるので職員がその見極めを間違えないよう努力している。また最初から出来ないと決め付けず一度はチャレンジして支援しながら様子を伺うようにしている。	○	出来るだけ自立の意欲を妨げないよう声かけをし、出来ないときは支援をしながら目標到達できるよう努める。(必要以上に声をかけたりすぐ手を出してしまうと尊厳を傷つけたり無気力になってしまう)
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外では家庭菜園をしたり、花をそだてている。	○	菜園や庭の草むしり、花や野菜への水まきなど声かけをして一緒におこない、花をつんで飾ったり、食材を採りに行ったりしている。季節により庭でバーベキューなどを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一人ひとりが職場・職務について前向きであり意欲がある。出来るだけ協力し個人の能力を生かした日常生活を送っている。かかりつけ医と協力し薬を必要最低限にする努力をしている。外出の機会や交流会などの機会をもち、社会から孤立しないようにしている。